

(写真右から)  
 山田勘太《乾漆食籠「仙果」》  
 2021年第38回日本伝統漆芸展(個人蔵) /  
 山岸一男《沈黒象嵌合子「能登残照」》  
 2016年第63回日本伝統工芸展NHK会長賞  
 (東京国立近代美術館蔵) /  
 彦十蒔絵《鉄瓶 鉄錆塗》  
 2015~2019年(個人蔵) /  
 藤野靖男《金魚蒔絵花器》2020年(個人蔵)  
 いずれも部分

開館時間

9:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

入館料

	個人	団体(20名以上)
一般	630円	520円
高大学生	320円	210円
小中学生	150円	100円

アクセス

- ◎飛行機  
羽田空港から約60分  
≫のと里山空港から車で約20分
- ◎車  
金沢市内≫のと里山海道利用=約100分  
(自家用車・大型バス無料駐車場有)
- ◎特急バス  
金沢駅≫北鉄奥能登バス「輪島駅前」下車  
=約120分
- ◎「輪島駅前」から  
▶のらんけバス海コース「漆芸美術館」下車  
▶徒歩約15分



〒928-0063  
 石川県輪島市水守町四十苅11番地  
 TEL 0768-22-9788  
 FAX 0768-22-9789  
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>



# MADE IN WAJIMA



## メイド・イン・ワジマ 漆の時代



### The AGE of URUSHI

石川県輪島漆芸美術館開館30周年記念特別展

2021.9.5<sub>土</sub>-10.24<sub>土</sub>

主催・会場 / 石川県輪島漆芸美術館

助成 / 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

後援 / 石川県・輪島市・輪島漆器商工業協同組合

# メイド・イン・ワジマ 漆の時代

## MADE IN WAJIMA

The AGE of URUSHI

輪島が漆器産地として全国的に有名になった背景には、時代ごとに新たな漆芸の姿を模索し続けてきた先人たちのたゆまぬ熱意と努力がありました。経営戦略、意匠や技、そして価値観の多様化に基づいた作り手による挑戦——現代に生きる私たちは、「漆の時代」を生きているという一本の線で彼らとつながっています。途絶えることなく人々が手渡してきたものは何なのか、そして、時代の変容の波に翻弄されながらも、新たな変化を遂げつつある輪島漆芸がこれからものづくりを行っていく意義を見出すことができるのか。石川県輪島漆芸美術館の開館30周年を飾る本展覧会で探ります。「漆」に込められた、作者たちそれぞれの生きざまをご覧ください。

### 1 経営者たちの時代

より多く、より美しく。  
美術漆器が花開く他  
産地を見澄ましつつ、  
「輪島」の変革を叫んだ  
旗手たちの行進。



1 小式海清九郎《雅楽器蒔絵椀》20世紀前半(個人蔵) 2 わん吾 川端漆器店《溜塗菊鉢》20世紀前半(個人蔵) 3 週福舎《山水沈金箱》1881年頃(東京国立博物館蔵) 4 漆器製造合名小西会社《猿素彫短冊箱》1915年(個人蔵)

### 2 技と意匠の時代

ついに拓かれた公募展への道。作家を志した作り手たちは研鑽を積み、高みへと登りつめる。成熟した輪島漆芸はさらにその先を目指していく。



### 関連イベント

#### クロストークセッション オンライン配信

9月11日(土) 公開  
桐本泰一×若宮隆志(彦十蒔絵)

9月25日(土) 公開  
木谷陽子×田中義光

#### 若手作家によるトーク オンライン配信

9月18日(土) 公開  
小西紋野

10月2日(土) 公開  
井亀令子

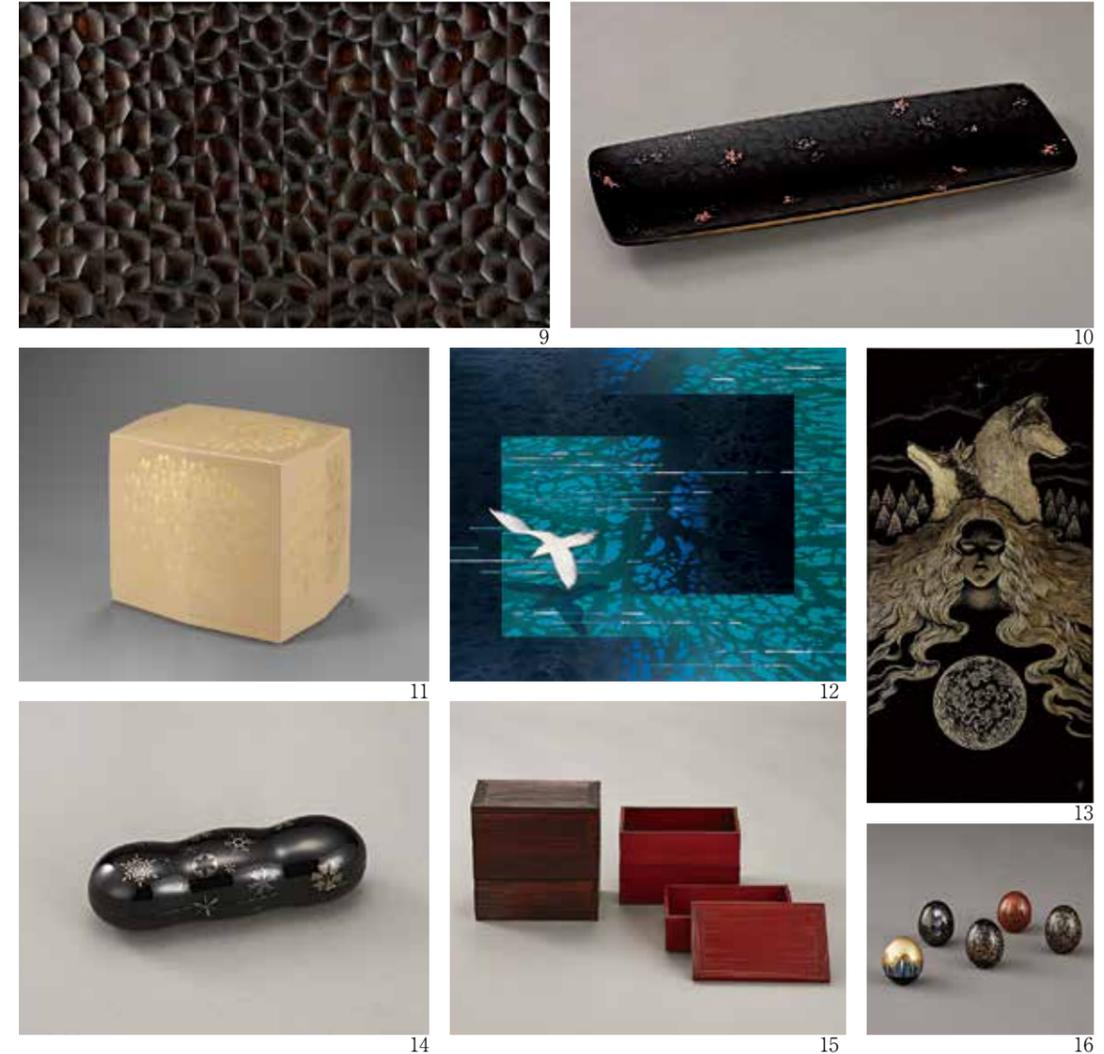
#### 学芸員による ギャラリートーク

10月9日(土)  
10月16日(土)  
会場 展示室  
いずれも13:30から  
要入館券

\*内容に変更の生じる場合がございます。最新情報は当館公式ホームページをご覧ください。

### 3 その先にある 漆の時代

いま漆と向きあう  
表現者たちが追い  
求める新時代とは。  
ぶつかりあう感性  
の火花が熱い。



9 輪島キリモトと桐本泰一《亀甲柄り模様拭漆パネル「諸法無我」》2021年(部分・輪島キリモト蔵) 10 田中義光《蒔絵盛器「しじまの向こう」》2021年第61回石川の伝統工芸展(個人蔵) 11 西 勝廣《沈金箱「忍冬」》2013年第60回日本伝統工芸展文部科学大臣賞(文化庁蔵) 12 木谷陽子《映》2012年第22回日工会展日工会大賞(木谷陽子氏蔵) 13 井亀令子《ワルブルギス》2021年(個人蔵) 14 箱瀬淳一《豆筥(雪華蒔絵)》2021年(個人蔵) 15 赤木明登《へぎ板三段重箱》2020年(個人蔵) 16 小西紋野《乾漆卵香合「空は光に満ちて」》2018年(個人蔵)

- 5 前 大峰《雉子沈金衣裳筥》1932年(宮内庁三の丸尚蔵館蔵)\*9月5日~9月30日のみ展示
- 6 天野文堂《花鳥飾箱》1934年第15回帝展(石川県輪島漆芸美術館蔵)
- 7 二代井波喜六齋《牡丹蒔絵沈箱》20世紀前半(石川県輪島漆芸美術館蔵)
- 8 竹園自耕《草花五題丸盆》1926年(濱口行雄氏蔵)

\*会期中、作品の入替えがあります。

割引券

1枚につき  
8名様まで団体料金